

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org

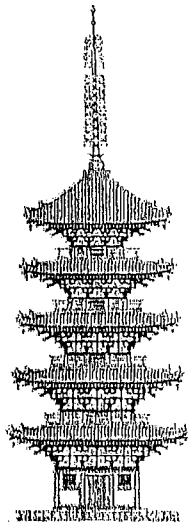
皆さんこんにちは。今月も弘法さんの日がやってきました。先月号でお伝えしましたとおり、今月は石仏について調べてみました。

★石仏は三種類

このかわら版を読んでくださっている皆さん、まわりを見渡してみてください。石仏が目に入りませんか。こゝ覚王山八十八カ所霊場の路傍には、たくさん石仏が鎮座しています。

石仏には、**神像系**、**仏像系**、**石造遺物の三種類**があります。神像系は**道祖神**や**水神**の像のことです。仏像系は**観音菩薩**や**地藏菩薩**です。石造遺物は**狛犬**(こまいぬ)や**道標**(みちしるべ)のことを指します。さて、回りの石仏はどの種類でしょうか。

石仏の姿をかたどったものを**刻像**、文字だけを刻み込んだものを**文字塔**とも言います。



地藏菩薩

★石仏は地蔵さまではありません

覚王山八十八カ所霊場に最も多いのは**仏像系**です。仏像系の石仏は、**印相**(いんぞう)の形(形)や持ち物で何仏か見分けがつけます。

阿弥陀如来さまの印相は**弥陀定印**、**大日如来**は**智拳印**、**釈迦如来**は**法界定印**といった具合です。

石仏の代表格、**お地蔵さま**(正確には**地藏菩薩**)は僧の顔をして**錫杖**(しゃくじょう)と**宝珠**(ほうじゆ)を持っているのが一般的です。

お地蔵さまは、**お釈迦さまの入滅後**、**弥勒菩薩**が出現するまでの**無仏の間**、人々を救ってくれる**救世主**だと信じられていました。**六道**(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上)の迷いの世界で**地藏菩薩**が救ってくれることから**六地藏像**が並んでいる風景もよく見かけます。

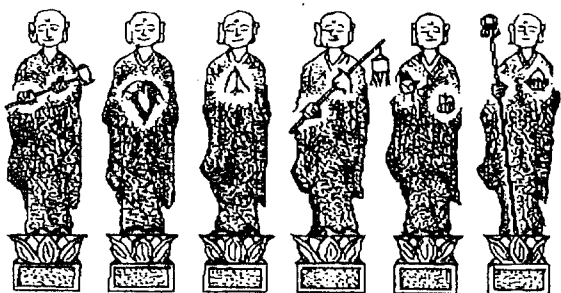
覚王山八十八カ所霊場をはじめとする全国の四国霊場の写し(新四国とも言います)では、石に刻まれたり石仏となった**弘法大師像**にも出会えます。さて、今日はいくつの弘法大師像を見つけることができましたか。

★赤坂町の弘法堂

かわら版第五号でご紹介しましたように、名古屋周辺には、**荒子、笠寺、竜泉寺、甚目寺の尾張四観音**があります。覚王山はその四つを結ぶ**四観音道**が通っていますが、日泰寺の北に接する赤坂町には、笠寺から竜泉寺へ向かう四観音道の傍らに**弘法堂**があります。弘法堂には**四体の石仏**があり、一番大きなものが**道標仏**となっています。よく見ると、道標仏には「右・みなみかきでら道、左・坂を下って左へりゆうせんじ道」と刻まれていました。日泰寺から歩くと少し遠いですが、散策がてらに弘法堂にお出かけになってみてはいかがでしょう。

★石仏巡礼

石仏を巡ることを**石仏巡礼**とも言



六地藏

います。まとまった石仏群に出会える霊場や寺院は全国各地にあります。愛知県内では、鳳来町の**仏坂ふりくさ道**という山道に石仏群があるそうです。鳳来町には弘法大師が発見したとされる**赤引温泉**もありますので、何か関係があるのかもしれませんが。ご存知の方がいらっしやいましたら編集部まで是非お知らせください。

★御祥当の読み方

先月号でお釈迦様の年命日である**御祥当**を「**フクニツク**」とご紹介したところ、「**フクニツク**」ではないかのご指摘を頂戴しました。たしかに「**ごしようとう**」が一般的のようですが、「**ごようとう**」との読み方もあるようです。しっかり調べて来月号でご報告させて頂きます。もう少々お待ちください。